



GO² ブロードウェイ

2005年11月27日
若竹ミュージカル
運営委員会 発行

<http://homepage3.nifty.com/wakatakemusical/>



長かった。



あっという間だった！

若竹ミュージカルがあゆんで来た 12年の歴史をぎゅーーと ちぢめて1時間にしました。

「にこやかに・笑顔で」をテーマにしよう！
広井先生のお言葉をしっかり心に刻んで臨んだ「若竹ミュージカル12年の軌跡」小金井祭公演でした。満員のお客さまに12年間の練習の成果を見ていただきたくて、全員が赤・黒・緑のチョッキで3つの作品の特色を表現しました。沢山のアンケートに感動の声が寄せられ、今後の活動への励ましと期待されていることを実感いたします。次の目標に向かって新たな第1歩が踏み出される時です。大きな夢を持ち続け、高い、高い山をめざし、がんばりましょう。

若竹ミュージカル
12年の軌跡
きゅーーとちぢめた12年
小金井祭 14:00開演

いいコンサートでした

音楽之友社「教育音楽」編集部 外崎明誠

とても素晴らしいコンサートでした。「12年の軌跡」とうたわれたこのコンサートで、いくつかの発見と驚き、感動がありました。

私が若竹ミュージカルの存在を知って、「その軌跡を『教育音楽』に連載したい」と工藤先生に相談したのは『屋根の上のヴァイオリン弾き』の練習真っ最中の03年の夏でした。ですから私は『屋根の上の・・・』しか見たことがなく、若竹の『ウエストサイド・ストーリー』『サウンド・オブ・ミュージック』は初体験でした。

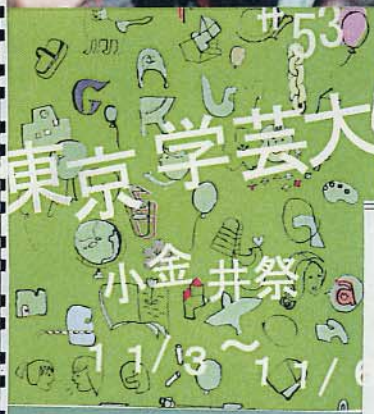
まず驚かされ、感心したことが2つありました。一つ目は、お母さん達のアカペラ・コーラス。無伴奏でハーモニーをそろえるのはとても難しいのに、何と見事なハモリ！ 清らかな響き！ 恐れ入りました。二つ目は『トゥナイト』。「あれっ、何か大串さんに似た人が歌っているぞ？」見間違いはありません、コントラバス奏者でオケ団長の大串さんです。その少年のようにきれいな声と素晴らしい歌に、またびっくり！ 大串さんは打ち上げ会の席で「機会があったらまた挑戦してみたい」といっていましたが、これは他のメンバーもうかうかしてられませんね。

高校生の時に『ウエストサイド・・・』を観て、音楽とダンスの表現力に衝撃を受けました。修学旅行では東京の映画館でもう一度観て、何度も映画館やビデオで観た、私にとってミュージカルの中でいちばん好きな作品なのです。でも『教育音楽』の編集をしていると、先生が鑑賞の教材として『ウエストサイド・・・』を取り上げる例にたくさん出会うので、いつしか40年前の衝撃は薄れていました。

それが、オケがひそやかに『トゥナイト』の旋律を奏で始めた瞬間に蘇りました。胸がキュンとなり、背筋がゾクゾクします。「あ、ヤバイ」「でも今日は写真を撮るのが仕事」と自分に言い聞かせます。が、終盤、指揮者の広井さんがオケと出演者全員に向かって、気持ちを込めて全身で振る姿に、こらえていたものが決壊して涙してしまいました。初めのうちはシャッター・チャンス逃していけないと、眼鏡の間だから指でぬぐっていましたが、眼鏡とカメラのファインダーが曇ってしまい、大急ぎでハンカチを取りました。

考えてみると、若竹の公演ではいつも泣いていますが、これまでは卒業生と保護者の皆さん、そして支援の人たちの苦労やいろんな歴史を思っただけの涙だったように思います。今回は、それも多少はあったかもしれませんが、音楽の持つ力、演奏の素晴らしさに感激した涙だったように思います。皆さんの12年の積み重ねが、掛け値なしの感動を実現したのではないのでしょうか。

若竹の魅力の1つは、全員が主役であり、色々な人がそれぞれのできることを担当して作り上げているところでしょう。しかしあえて言わせてもらえば、決して世渡りが器用とは言えない、しかし誰もが好きになる二人の男、工藤傑史先生と指揮者の広井隆氏が核だと思います。そして広井さんの人間性と、彼の元に集まるオケの素晴らしさ！ かつて私は、全国の先生に向けて叱咤激励の思いを込めて「あえて言おう、オケがなくてもミュージカルはできる」と書きましたが、広井さんと若竹ミュージカルの存在は、ほとんど奇跡だと改めて思いました。



『若竹ミュージカル12年の軌跡』
コンサート
入場無料
11月6日(日)
開場13:20 開演14:00

↑満員のお客さま
←小金井祭の
プログラムより
↓朝日新聞多摩版

東京学芸大付属養護学校(東久留米市)の卒業生が中心のミュージカル劇団「若竹ミュージカル」の公演が6日、小金井市貫井北町4丁目の東京学芸大学芸術館ホールである。94年の初公演以来、ほぼ毎年1回、名作を上演してきた。今回は「屋根の上のヴァイオリン弾き」など、これまで演じてきた三つのミュージカルを取り上げ、活動の軌跡を追う。

若竹ミュージカル
コンサート
『若竹ミュージカル12年の軌跡』
東京学芸大学付属養護学校
卒業生・家族・教員・支援者
若竹ミュージカルオーケストラ
指揮：広井 隆

学芸大付養護OBら 劇団12年の成果公演

同劇団は93年に設立した。養護学校卒業生のほか、保護者や兄弟姉妹、教員、それに活動の趣旨に賛同した一般の支援者らも参加。同大管弦楽団のOBを中心とするオーケストラも合わせると総勢100人を超す。劇団代表で同大付属養護学校教諭の工藤傑史さんは「団員たちは音楽を通じて集い、学び、表現することで互いに高め合ってきた」と話す。今回の公演では、大切に歌ってきた名曲を披露しながら、すべての団員が新しい作品に取り組む気持ちも養って欲しいという。公演は6日午後2時開演、入場無料。オーケストラの演奏に合わせ、ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」から「陽は昇りまた沈む」、「サウンド・オブ・ミュージック」から「すべての山に登れ」、「ウエストサイド・ストーリー」から「トゥナイト」といった名曲を、コンサート形式で9曲ほど披露する予定。問い合わせは同養護学校(0424・71・5274)へ。

あす小金井ミュージカル3作